

教育プログラム・コースの概要

大学名等	東京薬科大学大学院						
教育プログラム・コース名	緩和ケア医療者養成コース（インテンシブ）						
対象者	薬剤師および訪問看護師、ケアマネージャー、栄養士を含むその他の医療人						
修業年限（期間）	4年を目途とする						
養成すべき人材像	<p>①がん薬物療法の支持療法としての緩和ケア（非がん疾患の緩和ケアとの比較も含めて）を理解し、最新のがん薬物療法における知見を踏まえた緩和ケアを実践できる薬剤師</p> <p>②様々な年齢（小児、AYA世代、高齢者など）、場面（在宅、緩和ケア病棟、外来、就労など）における緩和ケアについて理解し、薬物療法における処方提案や職種間連携体制を構築できる薬剤師</p> <p>③職種横断的な部門の構成員として、がん治療を俯瞰しマネジメントを行うことができる薬剤師</p>						
修了要件・履修方法	所定の講義科目6単位の履修（実習科目の選択も可能）2単位程度をゲノム医療者養成コースまたは緩和ケア医療者養成コース（インテンシブ）に充てる。本学薬学研究科薬学専攻博士課程臨床薬学コース大学院生に対する認定制度に準拠した履修者の評価を行い、コース修了後は本学薬学研究科より修了証を発行する。						
履修科目等	＜選択科目＞薬学基礎、医薬品情報学、薬物療法学（がんの生物システム学、緩和医療概論、緩和医療実践、がん化学療法を含む）から4単位						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	弘前大学、秋田大学の医学部附属病院薬剤部ならびに本学連携病院で薬学部のない長野県・山梨県の地域基幹病院でがん薬物療法に従事する薬剤師やその他の医療人を対象に、緩和ケア領域の薬物療法に精通した人材を育成する。さらに地域薬剤師会、保険薬局、訪問介護ステーションとの連携を通じ、がん患者の在宅医療に必要な緩和ケア領域における薬物療法の修得と普及を目指す。その際には、既に地域コミュニティーで確立されている訪問薬剤管理指導に従事する薬剤師と訪問看護師、ケアマネージャー、栄養士などの多種職種間ネットワークを活用する。各地域に散在する医療機関と本学とは、遠隔地会議システムを利用することで、講義や演習を行ったり合同カンファレンスや研修会を開催したりする。さらに本プログラムを終了した薬剤師が、緩和ケア領域における適切な薬物療法を普及させるため、当該地域のかかりつけ薬剤師に対する支援を行い、入院から在宅療法に至るシームレスな薬物療法を提供する。						
指導体制	本学大学院の緩和医療実践分野を中心に、がん専門薬剤師の資格を有する教授を含めた当該分野の指導教員が指導を行う。臨床実習では緩和ケアの実践を学び、薬物療法の現状を踏まえた専門薬剤師としての素養を身に付けさせる。さらに、東京医科歯科大学で行われる、大学院生を対象とした緩和ケアの基礎から臨床までの講義を受講させ、緩和ケアに関する幅広い知識を修得させる。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	・緩和ケアに従事する薬剤師（緩和薬物療法認定薬剤師等）						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	インテンシブ	0	5	5	5	5	20
	計	0	5	5	5	5	20